

徳島県立博物館
第5期中期活動目標 (案)

令和6年2月1日

生涯学習社会の進展等、博物館を取り巻く状況の大きな変化を受け、博物館活動の基本である資料の収集・保存や調査研究、展覧、普及教育等の事業に加えて、近年は、学校教育の支援や社会貢献、博物館活動への県民参画等、新たな課題への取り組みが求められるようになってきました。その一方で、財政状況悪化による運営予算の削減、事業評価、及び公的施設の運営の見直し等がすすめられるようになってきました。

こうした状況の変化を踏まえ、徳島県立博物館では平成16年度以来、4期20年間（第1期：平成16～20年度、第2期：21～25年度、第3期：26～30年度、第4期：31～令和5年度）にわたり、中期活動目標とそれにもとづく点検・評価を行いながら、事業の改善と活性化をすすめてきました。

ちょうど、第1期活動目標にもとづく活動が終わる20年度、博物館法が改正され、運営状況の評価と運営の改善に必要な措置を講ずるための努力義務に関する内容が盛り込まれました。また、第2期目標にもとづく活動をすすめていた23年度には、文部科学省から「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」が告示され、博物館運営の点検・評価の実施とそれにもとづく改善、それらの内容の公表について努力するよう求められました。こうした法制面での動向からも、徳島県立博物館における中期活動目標の策定・運用は適切な取り組みとことができ、今後も継続的に推進することが必要だと考えられます。

近年では、社会教育施設である博物館の役割は広がりつつあり、観光や地域への貢献等も期待されています。令和4年度には博物館法が改正され、国際博物館会議（ICOM）^{（注1）} プラハ大会では新たな博物館の定義が採択されました。このように博物館を取り巻く状況は大きく変わりつつあり、求められる役割も多様化・高度化していると言えます。だからこそ、これまで以上に、地域に根差し、学術的な裏付けのある資料収集・保存や調査研究といった、しっかりとした土台を保つことで、良質かつ多面的なサービスの実現、求められる役割への対応が可能になると考えられます。

令和5年度をもって第4期活動目標の期間が終了したことから、これまでの成果を踏まえて、ここに第5期目標（6～10年度）をまとめました。

（注1）

国際博物館会議（ICOM）プラハ大会で採択された「博物館の定義」の日本語訳（ICOM日本委員会による）は次のとおりです。

博物館は、有形及び無形の遺産を研究、収集、保存、解釈、展示する、社会のための非営利の常設機関である。博物館は一般に公開され、誰もが利用でき、包摂的であって、多様性と持続可能性を育む。倫理的かつ専門性をもってコミュニケーションを図り、コミュニティの参加とともに博物館は活動し、教育、楽しみ、省察と知識共有のための様々な経験を提供する。

1. 第4期中期活動目標の総括

中期活動目標にもとづく事業改善と活性化に取り組むようになった平成16年度以来、事業の目標が明確に可視化されるとともに、達成度が客観的に示されるようになり、事業の課題や問題点を明らかにすることができるようになりました。情報を共有することで、職員の意識改革をすすめ、利用者にとって満足度の高いサービスを提供できるよう努めてきました。

第2期活動目標では、第1期の経験を活かし、徳島県立博物館の基本理念及び基本的性格^(注2)を再確認しながら、「県民とともに」を基調とする博物館の使命（存在意義や役割）をまとめたうえで、個々の事業やその目標、評価指標を位置づけることにしました。

基本理念及び基本的性格と、使命とを一体化した形で、事業の目指すべき方向を明確にしたのが第2期の特徴であり、これにあわせて評価指標等の見直しも行い、より丁寧な点検・評価をすすめることができました。ただ、基調とした「県民とともに」を推進するには、さらに意識的な方向付けが必要と考えられ、課題を残すことになりました。

これを受け、第3期では、「県民とともに」を確かなものとするため、使命の再検討を重点的に行い、新たに「**「連」**県民とのつながりを大切にする博物館」を加えることで、博物館の発信力を強化して、県民とのコミュニケーションの充実に力を注ぐ方針を明確にしました。また、これに伴い、事業区分を再編することにし、「**「県民協働・参画」**」を新たに設けることにしました。その他、各事業の目標や評価項目、指標等についても、実情を踏まえた点検・評価によって博物館活動のステップアップを図りました。

第4期では、第3期の「**「県民とともに」**」の基本路線の重視・継続を図り、より一層の「**「県民協働」**」の深化を模索しました。公募型ボランティア、恐竜化石発掘調査、常設展示室IPM（総合的有害生物管理）調査等がその代表例です。ただ、令和元年度から5年度にかけての新型コロナウイルス感染症の流行とそれにとまなう様々な制約により、各事業における連携や交流をとまなう活動は縮小を余儀なくされました。

そうしたなかでも、第4期中には常設展のリニューアルを行い、令和3年8月より運用を開始しました。リニューアルした常設展は、「徳島まるづかみ—“いのち”と“とき”のモノ語り—」をコンセプトとし、徳島の自然、歴史、文化を概観できるものです。この常設展リニューアルのプロセスでは、県民参画型ワークショップの開催や県民との協働による展示等、県民とともに事業を展開し、ハード面の整備を進めました。今後は、これまでの「**「県民とともに」**」の基本路線の一層の深化に加え、博物館という拠点を活かし、地域との連携や交流をすすめることが求められています。

(注2)

「徳島県立博物館の基本理念及び基本的性格」とは、「徳島県立博物館基本構想」（昭和59年1月）に示され、博物館の活動目標・指針となってきたものです。その内容は次のとおりです。

〈基本理念〉

①郷土に根ざし世界に広がる博物館

徳島の自然、歴史、文化の資料を総合的に展示し、全国的・世界的なかかわりについても理解できる施設

②開かれた博物館

博物館の活動に県民のだれでもが参加でき、楽しみながら学び、考え、豊かな知識を高めることのできる施設

③研究を大切にす博物館

学術的な調査研究、資料の収集を通して、常に新しい展示と情報を広く提供する施設

④文化財を守り自然の保全をめざす博物館

県民の貴重な文化的資料を永久に保管するとともに、文化財と自然の保護に努める施設

〈基本的性格〉

①人文科学（考古、歴史、民俗、美術〈近代美術を除く〉）・自然科学（動物、植物、地学）の両者が有機的に結びついた総合博物館とします。

②収集保存、調査研究、展示、普及教育の4つの機能を備え、本県の文化、学術、教育および生涯学習センターとしての役割を果たします。

③国内外の博物館、研究機関等と緊密な協力体制をとります。また、文化の森総合公園に建設が予定されている民家資料展示場、植物園等の施設はもちろん、県内の博物館、博物館相当施設、類似施設等と相互協力し、その中核的博物館としての性格をもつものとします。

2. 第5期中期活動目標の策定の経緯

近年、予算の減少や施設の老朽化、設備の長寿命化等の運営上の問題に加え、少子高齢化や縮小社会の顕在化等、当館を含む博物館を取り巻く状況は厳しさを増しています。また、ユニバーサル化や文化観光の推進等取り組むべき課題が増えています。

令和4年度には博物館法が改正され、令和5年4月1日に施行されました。この改正では、他の博物館等との連携及び地域の多様な主体との連携・協力により、地域の活力向上に取り組むことが追加される等、博物館事業についての見直しが行われました。同法に新たに追加された内容は、これまでの当館の取り組みとも合致するものですが、地域の持続と活性化に貢献することが一層求められています。

そこで、第5期中期活動目標の策定にあたっては、これまで4期20年間の活動を振り返り、新たな時代にふさわしい使命及び活動目標についての検討を行いました。その結果、これまでの「県民とともに」という路線を一層深化、発展させるとともに、地域の持続と活性化に貢献することを新たに使命に加えることとしました。

3. 徳島県立博物館の使命

徳島の自然、歴史、文化の交流拠点

—だれもがとどえる博物館、楽しく学べる博物館—

徳島県立博物館は、世界的な視点を踏まえながら、徳島の自然、歴史、文化についての資料・情報にもとづき、体験と学びの場を創ります。また、県民のみなさんとともに活動し、地域の持続と活性化に貢献します。

「知」知と出会う博物館：展示、普及教育

博物館は、多様な資料・情報にもとづき、県民のみなさんが楽しく学べる場を創ります。

「探」地域の魅力を探る博物館：調査研究

博物館は、県民のみなさんとともに様々な資料を調べ、新たな地域の魅力を見つけます。

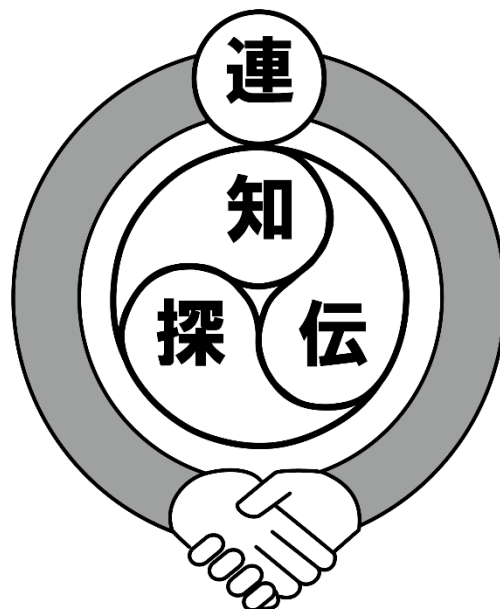
「伝」未来にまもり伝える博物館：資料の収集・保存と活用

博物館は、県民のみなさんとともに資料を集め、「みんなの宝」として受け継ぎ、未来にまもり伝えます。

「連」つながりを大切にし、だれもがとどえる博物館：情報の発信と公開、県民協働・参画、シンクタンクとしての社会貢献

博物館は、県民のみなさんと連携し、だれもがとどえる場を創ります。

博物館では、効率的でバランスのよい運営を心がけながら、以上の使命を実現するため努力していきます。



徳島の自然、歴史、文化の交流拠点
—だれもがとどえる博物館、楽しく学べる博物館—

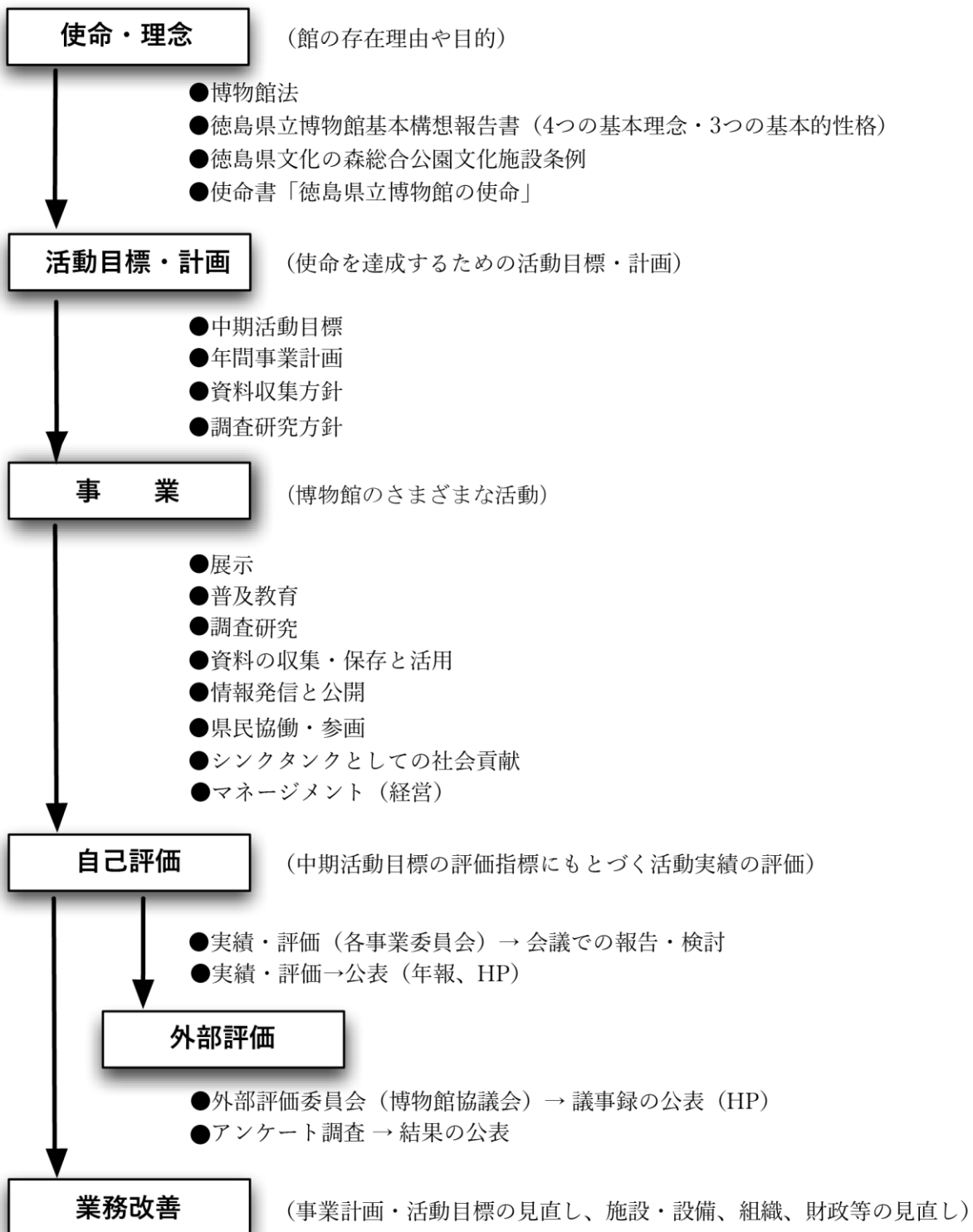
「徳島県立博物館の使命」における要素間の関係

4. 第5期中期活動目標の推進方法

中期活動目標とは、使命を実現するために、今後5年間（令和6～10年度）の活動目標を事業ごとに定め、年度ごとに評価を行うとともに、事業改善につなげていくためのものです。その推進にあたっては次の点に留意します。

- ・中期活動目標は、博物館協議会に諮ったうえで公表します。
- ・それぞれの活動目標にもとづき、年度計画を立てて活動を推進します。
- ・年度末には活動実績の評価を行い、その結果を年報やホームページに掲載するとともに、次年度以降の活動計画に反映させます。
- ・活動実績及び評価の結果についての博物館協議会での議論を経て、外部評価意見としてホームページに記載するとともに、出された意見を次年度以降の活動の改善に役立てます。
- ・活動目標と評価指標・目標値については毎年度見直しを行い、必要があればより適切な形に改めます。

中期活動目標の推進手順



5. 事業別の中期活動目標と評価指標

徳島県立博物館の使命を実現するために行う事業は、次のとおりです。

- ・「知」知と出会う博物館：展示、普及教育
- ・「探」地域の魅力を探る博物館：調査研究
- ・「伝」未来にまもり伝える博物館：資料の収集・保存と活用
- ・「連」つながりを大切にし、だれもがとどえる博物館：情報の発信と公開、県民協働・参画、シンクタンクとしての社会貢献
- ・効率的でバランスのよい運営：マネージメント（経営）

①展示

だれもが楽しく学び、新しい発見や体験ができるよう、実物資料や最新の情報にもとづき、県民のみなさんや関連機関と連携しながら、徳島及び関連する地域の自然、歴史、文化について幅広く展示します。

（使命：「知」知と出会う博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
1-1 常設展の改善・充実	新しい資料の追加、研究成果の反映、展示技法の改善等により、常設展の改善・充実に努めます。	常設展観覧者数	年間の観覧者数	40,000人/年	
		観覧者の満足度	観覧者の展示内容に対する満足度	80%	
		展示替え回数	展示替え及びコレクション展示等の開催回数	10回/年	
		展示室内の改善・修繕の実施状況	設備等の改善・修繕状況及び展示補助具の追加・改善の状況		映像機器のメンテナンスを含む
1-2 魅力ある企画展の計画的開催	調査研究の成果を活かすとともに、県民のニーズを反映しながら、多様なテーマの企画展を計画的に開催します。	企画展観覧者数	1日あたりの観覧者数	自然 250人 総合 150人 人文 100人	
		観覧者の満足度	観覧者の展示内容に対する満足度	80%/回	
		展示への注目度	マスコミ報道等件数	5件/回	
1-3 多様な展示の開催促進	企画展以外に、特別陳列等の多様な展示を開催します。	特別陳列等の開催回数	企画展以外の主催展示の開催回数	2回/年	常設展示室以外のロビー等における展示を含む
		特別陳列観覧者数	1日あたりの観覧者数	自然 300人 総合 200人 人文 100人	
		観覧者の満足度	観覧者の展示内容に対する満足度	80%/回	特別陳列のみ
		展示への注目度	マスコミ報道等件数	5件/回	特別陳列のみ
1-4 他機関との共同による展示等の促進	文化の森内での共催展や館外での移動展等により、各種の展示を促進するとともに、県内の博物館等の施設を支援します。	文化の森内での共催展の開催回数	当館の関わりが補助的なもの	2回/年	
		移動展等館外での展示の開催回数	文化の森外の博物館等において当館を主催者を含む展示の開催回数	2回/年	
1-5 観覧者による展示理解への支援	展示解説等を行うことで、展示内容を観覧者にわかりやすく伝えます。また展示解説シートや企画展図録等を発行します。	展示解説等、展示内容を理解するための各種活動の実施状況			
		展示解説シート等の配布・設置状況			
		企画展図録等の発行状況	年間の刊行冊数	2冊	
1-6 県民との協働による展示の推進	県民との協働により、一層魅力のある展示を目指します。	県民との協働による展示の実施状況			

②普及教育

徳島及び関連する地域の自然、歴史、文化について、だれもが楽しく体験し、学ぶことができる多様な学習機会を創出するため、生涯学習を推進するとともに、学校や地域における教育を支援します。

(使命：「知」知と出会う博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
2-1	だれもが参加しやすい普及教育事業の取り組み	幼児や外国人、障がい者等を含むさまざまな人が参加できるように取り組みます。	だれもが参加しやすい普及教育事業の取り組み状況		
2-2	県民のニーズを反映した普及行事の開催	普及行事実施回数	主催する普及行事の実施回数	68回/年	学芸員数(17)×4件/年
		参加者の満足度	事後アンケートにおける満足回答者の割合		
		アウトリーチ活動数	他館との共催による普及行事(展示を除く)	5回/年	移動展の展示解説を算入する
2-3	県民との協働による普及行事の推進	県民と協働し、魅力あふれる普及行事を推進します。	県民との協働による普及行事の実施状況		県民からの協力を受けた行事を含む
2-4	学校や地域における教育への支援	学校や地域との連携・協働により、授業や研修、資料貸出、職場体験、遠足等の受け入れ、講演会や研修会等への講師派遣等を行い、地域の教育力の向上を支援します。	学校や地域における利用促進に向けた取り組み		
		出前授業及び館内授業件数	児童・生徒等を対象とした学校等及び博物館での授業	17件/年	学芸員数(17)×1件/年
		資料貸出件数	学校等への資料貸出	10件/年	
		研修件数	教員等を対象とする研修の受入		
		職場体験等件数	生徒等を対象とする職場体験等の受入		
		遠足件数			
		講師派遣等件数	7-2の講師派遣等件数のうち普及教育に係わるものの件数		
2-5	普及的記事の執筆推進	普及的記事の執筆数	年報「調査研究」本文の一般著述数	38件/年	学芸員及び企画担当職員数(19)×年2本
		博物館ニュースの発行回数		4回/年	

③調査研究

徳島及び関連する地域の自然、歴史、文化に関する新たな価値の発見のため、基礎的な調査研究及び博物館学的調査研究を、県民のみならず関連機関と連携しながら、全国的・世界的な視野で推進します。また、地域の魅力を発信するため、研究成果を展示や普及教育等の活動に還元します。

(使命：「探」地域の魅力を探る博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
3-1 調査研究活動の推進	徳島及び関連する地域の自然、歴史、文化に関する基礎的な調査研究及び博物館学的調査研究を積極的にすすめます。	課題調査実施状況	課題調査として予算化された研究テーマ	2件/年	
		計画的な個別調査研究の実施状況	課題調査以外の研究テーマの実施状況	51件/年	学芸員数(17)×年3件
3-2 外部研究機関等との連携の推進	他の博物館や大学、研究団体、学会、研究者との共同研究を積極的にすすめます。	共同研究件数	他機関やアマチュア研究者との研究件数	15件/年	
		共同研究プロジェクト件数	上記のうちプロジェクト化された共同研究の件数	4件/年	科研費プロジェクト等の研究分担を含む
3-3 県民参画型調査研究の推進	博物館の調査研究活動に県民のみならず参画できるプロジェクトを企画し、実施します。	県民参画型調査の件数		2件/年	
3-4 外部資金の獲得による調査研究事業の推進	研究補助金等を獲得し、研究活動の推進を図ります。	研究補助金等の申請・採択件数	科研費等公的な補助金及び民間の研究補助金等による競争的研究資金	申請5件/年 採択2件/年	科研費プロジェクト等の研究分担を含む
3-5 調査研究成果の公表	博物館の調査研究の成果を学術論文や学会発表、研究報告書の出版、インターネットでの公開、マスコミ等への資料提供を通じ公表します。	学術的著述数	年報「調査研究」本文の学術的著述の件数	34本/年 (査読付き6本/年)	学芸員数(17)×年2本
		学会・研究会での発表件数	学会や研究会での口頭・ポスター発表の件数	34件/年	学芸員数(17)×年2回
		研究成果のデジタルアーカイブ化	インターネットでの研究成果の公開	2件/年	・HPでの研究報告掲載論文等の公開 ・調査データ等のHP等での公開
		マスコミへの資料提供件数	5-1の資料提供件数のうち調査研究に係わるものの件数	3件/年	

④資料の収集・保存と活用

「みんなの宝」を未来に伝えるため、徳島及び関連する地域の自然、歴史、文化についての資料を県民のみなさんの協力のもと、全国的・世界的な視野で継続的に収集し、適切な環境のもとで保管します。また、収集した資料を地域の持続と活性化に資するものとするため、調査研究や展示で利用するほか、他の博物館や研究者等への貸し出しや提供を図り、幅広く活用します。

(使命：「伝」未来にまもり伝える博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考	
収集						
4-1	継続的な資料の収集	資料収集方針にもとづき、採集・購入・寄贈等による継続的な収集をすすめ、バランスのとれた特色あるコレクションづくりを行います。	収集資料点数	R5年度の収集資料点数実績+20,000点(年4,000点×5年)	R10年度末までに600,000点	採集、購入、寄贈等による収集資料の増加数を見込む
4-2	寄託資料の受入の促進	県内の貴重な資料の安全な保管と展示公開の促進を図るため、資料の寄託を受け入れます。	寄託資料件数			
			新規寄託件数		3件/年	
4-3	文献資料の充実	資料を活用するうえで不可欠な文献資料の充実を努めます。	図書冊数	R5年度の収蔵図書(雑誌類を除く)冊数実績+500冊(年100冊×5年)	R10年度末までに15,300冊	寄贈、購入等による図書冊数の増加を見込む
			購入雑誌タイトル数			
保存						
4-4	収蔵資料の整理・登録の促進	収蔵資料の整理・登録をすすめるとともに、資料を適切に管理し、活用を図るうえで不可欠なデータベースの整備を図ります。	収蔵資料DB登録率	(DB登録点数/収蔵資料点数)×100	R10年度までに50%を目指す	
4-5	資料の安全な保存	薬剤の適切な使用と、収蔵庫等の資料保存環境における定期的な点検・清掃作業等を組み合わせて、資料保存に取り組みます。	燻蒸の実施	燻蒸回数	3回/年	
			収蔵庫点検	点検回数	24回/年	チェックリストに基づく点検
			展示室点検	点検回数	12回/年	チェックリストに基づく点検
			企画展示室・歴史民俗収蔵庫の空気環境調査	空気環境の点検回数	2回/年	
		新たな防虫・防菌対策の検討	検討実績			
4-6	収蔵スペースの確保	収蔵資料の増加に伴い、不足しがちな収蔵スペースの確保のための工夫をします。	収蔵スペースの狭隘対策状況及び他館の情報収集等			
活用						
4-7	展示における利用促進	収蔵資料の展示における利用・公開の促進を図ります。	展示利用点数	常設展、企画展等での利用点数		寄託資料の利用も含む
4-8	貸出等の促進	貸出や提供等による収蔵資料の活用を図ります。	資料特別利用等件数	学校への貸出(2-2学校への資料貸出件数を参照)を除く	60件/年	
4-9	資料収集保存活動に対する理解の促進	積極的な情報発信を行うことにより、資料収集保存活動に対する理解の促進を図ります。	マスコミへの情報提供・ホームページへの掲載・記事執筆等件数		17回/年	学芸員数(17)×1回/年

⑤情報の発信と公開

博物館を有効に活用してもらうため、博物館活動に関する情報を多様なメディアを通じて発信します。また、多くの人に博物館活動への理解を深めてもらえるよう、情報発信を通じた交流を進めます。

(使命：「連」県民とのつながりを大切にする博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
5-1	マスコミへの資料提供等の推進 企画展や普及行事の案内だけでなく、博物館に関する情報を積極的に資料提供するよう努めます。	資料提供件数	マスコミに対して資料提供を行った数（月間催し物案内を含む）	30件/年	
		マスコミ取材報道件数	新聞・雑誌等が取材・報道した数	100件/年	
		マスコミ出演等件数	学芸員等がマスコミに出演した数	15件/年	
5-2	広報活動の推進 広報関係出版物の内容改善、配布ルートの新規開拓等をすすめながら、広報活動を推進します。	年間催し物案内発送件数（発送回数）	年間催し物案内の発送先の件数（発送した回数）	600件（1回）/年	
		月間催し物案内発送件数（発送回数）	月間催し物案内の発送先の件数（発送した回数）	各80件（12回）/年	
		博物館ニュース発送件数（発送回数）	博物館ニュースの発送先の件数（発送した回数）	各1,100件（4回）/年	
5-3	ホームページによる情報発信の推進 学芸員等による積極的な情報発信を促し、ホームページの充実を図ります。また、子どもから大人まで、さらに外国人や障がい者等、だれもが情報にアクセスできるよう努めます。	HP総アクセス数	HP上のすべてのコンテンツへの延べアクセス件数	10,000,000件/年	
		HPの内容の更新回数	新たに作成したり更新したページの数	70ページ/年	
		ユニバーサルな視点によるHPの改善	HPの内容改善に向けた取り組み状況		
		デジタルアーカイブ化の推進	新たに作成したり更新したページの数		
5-4	SNSによる情報発信 情報発信の推進のため、SNSによる情報発信を促進します。	SNSの投稿数	新規投稿回数	190回/年	学芸員及び企画担当職員数（19）×10回/年
5-5	他機関との連携による広報の推進 他機関と連携し、より広範囲かつ多様な受け手への情報発信に取り組めます。	他機関との連携による情報発信の件数	文化の森各館、博物館関連団体、各種ポータルサイト、各種連携事業等を通じた情報発信の件数	15件/年	

⑥県民協働・参画

県民の自主的な学びや地域活動の活性化を促進するため、県民のみなさんと一緒に活動し、だれもが互いにつながる拠点となることを目指します。

(使命：「連」県民とのつながりを大切に、だれもがつどえる博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
6-1 友の会活動の充実と活性化	友の会の指導・育成に努めるとともに、自主的な活動を支援し、友の会活動の充実、活性化を図ります。	友の会会員数	友の会（個人・家族）の会員総数	250人/年	R5年度の会員数からの増加を目指す
		個人会員		50人	
		家族会員		200人（50組）	
		会員の継続率	当該年度継続率	前年度会員の70%	
		個人会員			
		家族会員			
		友の会行事実施回数		6回/年	
		展示利用率	観覧者として入館した会員の割合	50%	
		個人会員			
		家族会員			
		延べ利用者数	観覧者として入館した会員の延べ人数		
		個人会員			
家族会員					
		会報の発行回数		2回/年	
6-2 公募ボランティアとの協働の推進	県民との協働により各種事業を推進するため、ボランティアを公募し、博物館活動への参画を促します。	ボランティア登録者数		32人	各分野（7）及び企画担当（1）×4人
		ボランティア活動回数	会合等を含む活動の延べ回数	24回	
6-3 各種事業での県民協働の推進	県民との協働により、魅力ある展示や普及行事及び調査研究活動を推進します。	県民との協働により実施した展示、調査、普及行事等の実施件数		5件/年	1-6、2-3、3-3、6-2の該当分の再掲

⑦シンクタンクとしての社会貢献

博物館は、その活動を通じてさまざまな資源（資料・情報・学芸員の知識）を蓄積するシンクタンクです。地域の持続と活性化に貢献するため、県民への生涯学習支援や自治体及び各種機関・団体への協力等をはじめとして、博物館の蓄積した資源を活用します。

（使命：「連」県民とのつながりを大切にし、だれもがとどえる博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
7-1 レファレンス利用者の拡大	来館による相談のほか、手紙や電話、メールでの質問等に適切に対応し、利便性を高めるよう努めます。	レファレンス件数	レファレンス記録DBにおける記録件数	500件/年	
		周知状況	レファレンス業務の周知取り組み状況		
7-2 講師派遣等の推進	他機関が主催する講演会、研修会等に学芸員を講師として派遣します。	講師派遣等件数	学校等への出前授業を除いた講師派遣等の件数		普及教育に係わるものを「2-4講師派遣等件数」に抽出 学校等への出前授業は「2-4出前授業件数」を参照
		講演会等の受講者数			
7-3 自治体及び各種機関・団体への専門知識の提供	自然環境保全や文化財保護等自治体やその他の機関・団体の委員会委員やアドバイザーとして、専門知識の提供を行います。	委員等受託件数	学会・博物館関連団体の委員等を除く		
		機関・団体等への協力状況			
7-4 大学教育への寄与	大学の非常勤講師の受託、学生・院生の研究指導、博物館実習生の受け入れ等、学芸員養成講座の開講等により、大学教育に寄与します。	非常勤講師受託件数			
		学生・院生指導人数			
		博物館実習生受入人数			
		学芸員養成講座受講者数	3科目（博物館資料保存論、博物館展示論、博物館教育論）の延べ受講者数		
7-5 学会・研究会の運営への寄与	学会・研究会を博物館で開催するほか、役員や各種委員等を引き受ける等、学会等の活動に貢献します。	学会等開催数	学会・研究会の大会・例会・シンポジウム等の開催数		
		学会等役員受託数	学会・研究会における役員・委員等の受託数		
		学会等事務局受託数	当館が引き受けている学会・研究会の事務局数		
7-6 博物館施設の連携強化への貢献	県内の中核的博物館として、博物館施設への助言を行うとともに、県博物館協議会の活動等を通じて博物館施設の連携促進に努めます。	博物館関連団体委員等受託数	博物館関連団体や他館の委員・役員等の受託数		
		博物館関連団体加入数	当館が加入している博物館関連団体の数		
		連携事業等の実施数	移動展・移動講座や他館との共催事業、資料保存等の支援の実施回数		

⑧マネージメント（経営）

長期的視野に立ち、博物館が地域の持続と活性化に一層貢献できる組織となるよう努めます。だれもが利用しやすい博物館とするため、施設の改善、博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討、職員の意識改革と専門的資質の向上を図ります。また、適切な博物館評価システムの運用等により、博物館活動の改善と活性化、利用者の増大を図ります。（使命：効率的でバランスのとれた運営）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
8-1 利用しやすい博物館をめざす施設の改善	わかりやすい案内表示やバリアフリー化、安全対策等に配慮し、高齢者や障がい者、外国人にとっても快適で安全な利用しやすい施設となるよう、日常的な点検・改善を行います。 また、講座室の貸出を行い、博物館利用の機会を増やします。	点検・改善の状況			
8-2 博物館認知度の向上と利用者層の拡大	博物館活動の活性化と広報の強化により、県内及び近隣地域での博物館の認知度を高め、博物館利用者の範囲の拡大と利用者増に結びつけます。	県民の博物館利用状況			
		県外利用者の割合			
8-3 県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討	友の会会員やボランティア等によるさまざまな博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討を行うとともに、友の会を母体とした博物館の運営支援組織のあり方について検討します。	ボランティア導入事業件数			
8-4 設置者による理解及び外部資金の獲得	博物館の使命、当館が果たしている幅広い役割等に対する設置者の理解を得るとともに、財政的支援等が得られるよう努力します。また、各種外部資金の獲得に努め、より効率的な運営を目指します。	博物館予算の状況			
		外部資金獲得数	申請件数、採択件数		
8-5 防災意識の向上と危機管理体制の強化	地震・津波等の自然災害や火災、盗難、負傷者の発生等に備え、文化の森各館と協力して防災意識の向上と危機管理体制の強化を図ります。また、県内で発生する災害に対して、県内博物館同士の救援態勢や相互援助の体制を整備するよう検討します。	防災訓練の実施状況			
		危機管理体制の整備状況 地震、津波等広域災害時の救援体制確立	収蔵庫の耐震化措置		
8-6 職員の意識改革と資質の向上	職員一人ひとりが博物館の社会的役割及び当館の使命を認識し、博物館活動の活性化と健全な経営に主体的に取り組めるよう意識改革と資質の向上を図ります。	国や博物館関係団体等による研修への参加件数		5件/年	
8-7 博物館評価システムの運用	博物館活動の中期活動目標にもとづく自己点検評価、博物館協議会による外部評価、結果の公開という適切な博物館評価システムを運用するとともに、来館者アンケートを活用して博物館活動の改善に役立てます。	中期活動目標の状況			
		自己点検評価の状況			
		外部評価の状況			